

中國出土資料學會
平成27年度大会（第3回例会）

日 時：平成28年3月12日（土）
平成27年度大会（第3回例会）
受付開始 12：30～
研究報告 13：00～17：00
總會 17：00～18：00

場 所： 成城大学 7号館3階 731教室 （東京都世田谷区成城6-1-20）
キャンパスマップ：<http://www.seijo.ac.jp/access/campusmap.html>
会場へのアクセス： 小田急線成城学園前駅北口より徒歩3分

報告Ⅰ 水野 卓（愛媛大学法文学部 講師）

発表題目：清華簡『繫年』より見た春秋時代の諸侯即位

発表概要：私はかつて『春秋左氏伝』（以下『左伝』）をもとに、春秋時代において君主がどのように即位するかを検討し、その結果、「立」「即位」「葬」という3段階を経て新君が誕生することを見出した（以下「前稿」）。これまで春秋史は、資料として主に『左伝』に頼らざるを得ない状況であったが、近年、春秋時代の出来事が描かれた清華簡『繫年』なるものが発見された。そこで本発表では、『繫年』に記された新君誕生に関する記述の検討を通して、前稿で見出した3段階を『繫年』にも見出すことができるのかと言った点を中心に、『繫年』において頻見される「即位」という語の意味についても言及してみたいと思う。

報告Ⅱ 李 銳（北京師範大学歴史学院史学研究所 教授）

発表題目：源流與同異一再論郭店《老子》的“絕_忒棄_慮”

発表概要：本文討論了裘錫圭提出的利用傳世文獻解讀出土文獻時的“趨同”和“立異”兩種傾向的問題，認為更加根本的是如何看待兩種或多種文獻之間的源流關係。並以郭店《老子》中“絕_忒棄_慮”一章的釋讀為例，展開具體分析。“絕_忒棄_慮”一章如何釋讀，學界的討論已多。裘錫圭先生就這一章專門寫了三篇文章，影響較大。圍繞其說，學界有很多相關的討論。仔細考察裘說，發現其依據是張立文批評其文而說的“忒”、“慮”等成對概念應該相異，這指導了裘氏的有關釋讀結果，如讀鞭為辨，認為“絕聖棄智”不符合老子思想。本文認為成對觀念應該相近，依據清華簡的材料，“慮”應該讀為“作”，鞭應該讀為辯，聖與智意思相近，並討論了這一章其他的相關問題。

報告Ⅲ 劉 国忠（清華大学出土文献研究与保護中心 教授）

発表題目：清華簡《管仲》の學術價值探論

発表概要：清華簡第六輯整理報告中收入了一篇與齊桓公和管仲相關的文獻，整理者將之命名為《管仲》。清華簡《管仲》現存30支簡，本篇簡文系以對話的形式來展現管仲和齊桓公的治國理念，內容非常重要。簡文中還包含了較多陰陽五行的思想，對於陰陽學說的研究也有重要作用，其中特別重要的一点，是清華簡《管仲》與《尚書》中的《洪範》篇直接相關，對於傳世的《管子》一書和《洪範》篇的研究具有很好的推動作用。

☆参加費(資料代) 500円

☆非会員の来聴を歓迎します

☆例会終了の後、懇親会を行う予定です。ふるってご参加ください。

連絡先 (例会委員長)

〒270-8555 千葉県松戸市新松戸3-2-1

流通経済大学新松戸キャンパス就職支援センター 富田 美智江

Tel : 047-340-0294

Fax : 047-340-0295

E-mail : tomita-michie@rku.ac.jp

